巻頭言

比較日本学教育研究センター長

森　山　　新

今年2008年は、日本文学を代表する源氏物語の千年紀であり、かつ本センターがこれまで特に力を入れてきた日仏の交流関係において重要な「日仏交流150周年」でもある記念すべき年でありました。さらに、私共が中心になって行ってきた国際日本学シンポジウムが第10回目を迎える節目の年でもありました。本年７月に開催された第10回記念大会の開催は、読売新聞、毎日新聞などのマスコミにより報じられました。一日目には日仏会館フランス学長フランソワーズ・サバン氏、パスツール研究所名誉所長マクシム・シュワルツ氏をお迎えし、日仏交流、文理融合のセッションが行われました。さらに二日目には源氏物語研究で活躍される国内外の著名な先生方と本学の平野由紀子先生とが源氏物語千年を記念してのセッションを開催しましたが、こちらも日仏の研究者による講演、発表と、文学と美術史とのコラボレーションによるもので、本センターが追求する学際性と国際性とが遺憾なく発揮されたシンポジウムとなりました。

私共のセンターの名称も今年度から「教育」の二文字が加わり、比較日本学教育研究センターとなり、日本学の研究拠点であると共に、教育拠点としての使命も担うこととなりました。今年で第３回目を迎える国際日本学コンソーシアムは、将来を担う若き研究者育成の教育プログラムであり、教員とともに大学院生も準備と開催、運営の一翼を担ってきました。また今回からは文理の枠を超えた学際性ある学びの場を提供するために統一テーマを設定しました。参加大学は今年から新たにパリ第７大学を加えたほか、コンソーシアムの一部でテレビ会議システムを用いアメリカと繋ぐなど、国際的ネットワークをさらに拡大かつ日常化する取り組みもありました。

また３年前より、世界の大学・研究機関と行われてきたジョイントゼミは、今年度は2008年10月に北京日本学研究センター（中国）、12月に国立政治大学（台湾）、2009年１月にパリ・ディドロ（第７）大学（フランス）にて開催されました。

センター研究年報も今回で第５号となりました。マスコミで取り上げられることも多くなり、本学サイトの学術成果コレクションTeaPotを通し、世界に向けて日本学研究の成果を配信しはじめました。

このようにセンターが設立されて満５年、シンポジウム10周年となる比較日本学教育研究センターは着実に活動を拡大、深化しております。このような研究の積み上げをこれからも引き継ぎ、日本学研究の拠点としてさらに発展するセンターとなっていくために、これからも皆さまの、ご理解、ご協力を心からお願い致します。

2009年３月